

Electone® *STAGEA*®
ELB-01

活用ガイド

STAGEA

この本の使いかた

このたびはヤマハエレクトーンELB-01をお買い上げいただきまして、
ありがとうございます。

この「活用ガイド」は、エレクトーンを演奏するときの姿勢や、
音やリズムの選びかたを学ぶ第1部と、実際の演奏をとおして
楽譜の見方や演奏のしかたを学ぶ第2部の、2部構成になっています。
第1部でエレクトーンの基本的な事柄を学んだら、第2部に掲載された
楽譜を使って演奏してみましょう。

楽譜は、エレクトーンをはじめて演奏する方でも楽しめる、
簡単で陽気なリズムの曲と、ちょっと大人っぽいチャレンジ曲の
2曲をご用意しました。

演奏していくうちに、エレクトーンに備わったさまざまな機能にも
興味がでてきたら、取扱説明書もあわせて読みすすめてみてください。
それでは、はじめましょう。

もくじ 目次

この本の ^{ほん} 使 ^{つか} いかた	2
第1部^{だいぶ} エレクトーン^{つか}の使^{つか}いかた	4
電源 ^{でんげん} を入 ^い れてははじめよう	5
音 ^{おと} を出 ^だ してみよう	8
リズム ^な を鳴 ^な らしてみよう	13
音 ^{おと} とリズム ^{たの} をいっぺんに楽しもう	15
そのほかの ^{つか} 使 ^{かた} 方	17
使 ^{つか} い終 ^お わったら	18
第2部^{だいぶ} 楽譜^{がくふ}を使^{つか}って弾^ひいてみよう	19
聖者 ^{せいじゃ} の行進 ^{こうしん}	22
演奏 ^{えんそう} の準備 ^{じゅんび} をしよう	24
演奏 ^{えんそう} をはじめよう	25
木星^{もくせい}	28
演奏 ^{えんそう} の準備 ^{じゅんび} をしよう	31
演奏 ^{えんそう} をはじめよう	41
エレクトーンコード表^{ひょう}	44

だい 第1部 ぶ

エレクトーンのつかいかた



こんにちは！

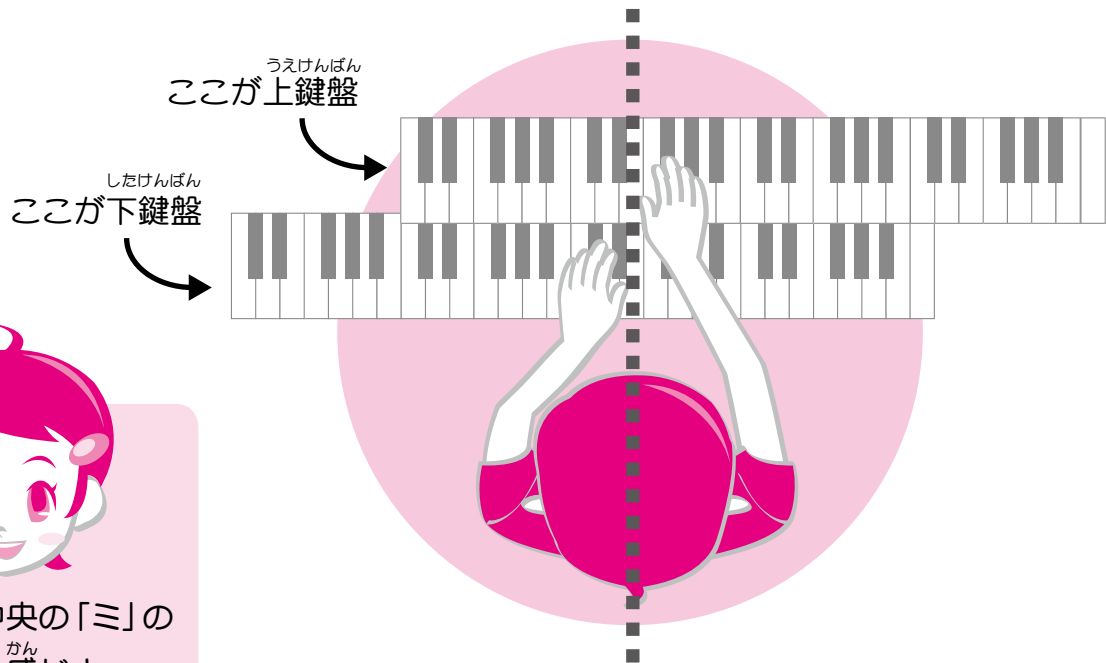
だい ぶ
第1部では、わたしがエレクトーン
つか
の使いかたについて案内するね。
たの
いっしょに楽しくエレクトーン
き ほん たいげん
基本を体験しましょう！



でんげん い 電源を入れてはじめよう

すわ 座りかた

からだ エレクトーンの ちゅうおう 中央にくるようにイスに すわ 座ってみてね。



おへそが中央の「ミ」の
い ち かん
位置にくる感じよ。

ひ し せい 弾く姿勢

けんばん て
鍵盤に手をおこう。

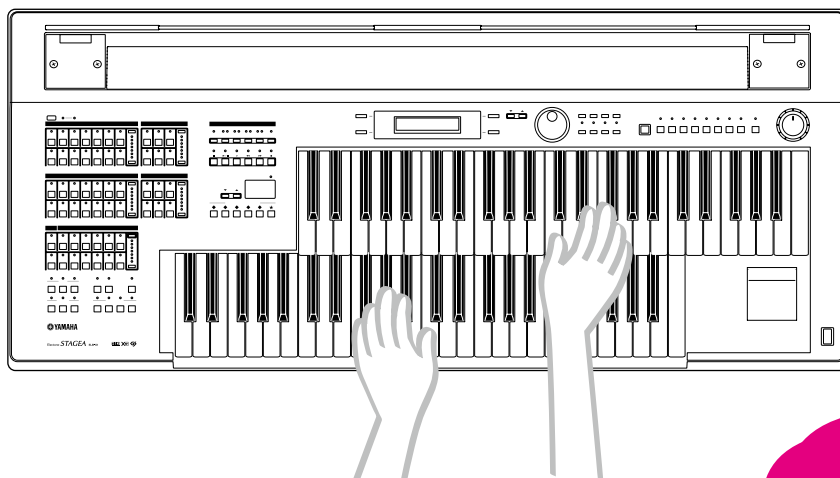
ひだりあし けんばん うえ
左足は、ペダル鍵盤の上にのせてね。

みぎあし おく
右足は奥のペダルにのせるよ。



りょうて 両手のおきかた

みぎ て うえけんばん ひだりて したけんばん
右手は上鍵盤、左手は下鍵盤においてね。

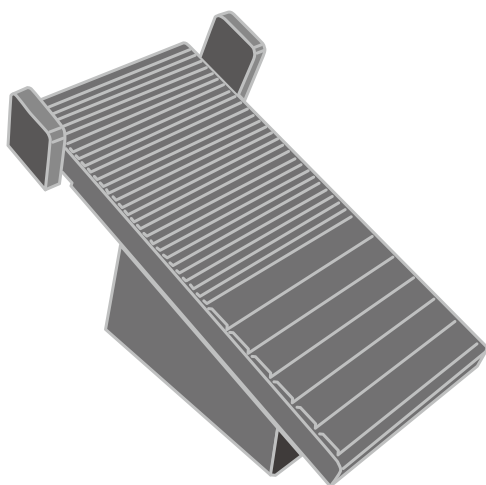


かた
肩の力を抜いて、
リラックス！



みぎあし 右足のおきかた

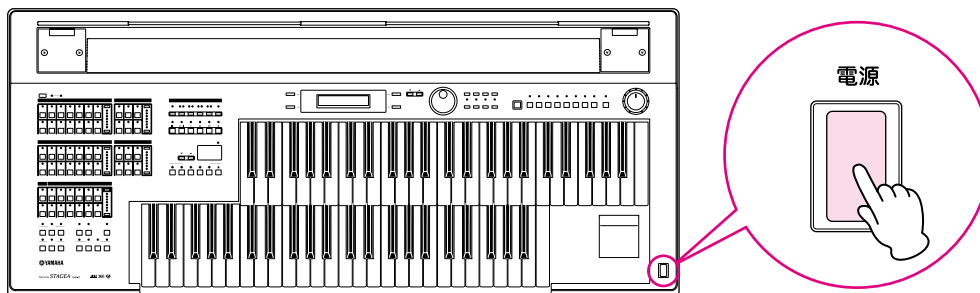
みぎあし おく
右足は、奥にあるペダル（エクスプレッションペダル）にのせるの。
ペダルはふみこむと角度が変わるから、からだのバランスを崩さないように、
そっとあしをのせてね。



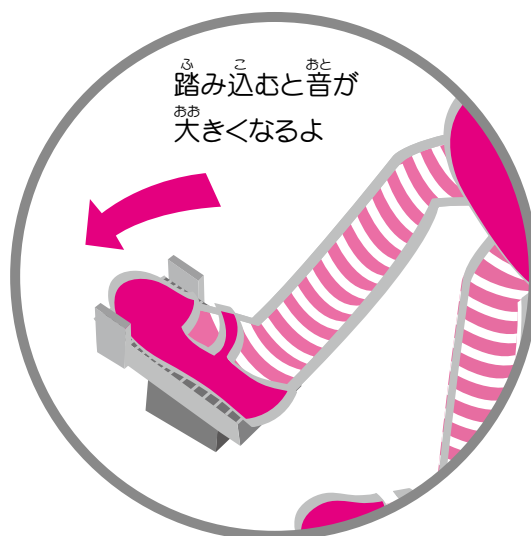
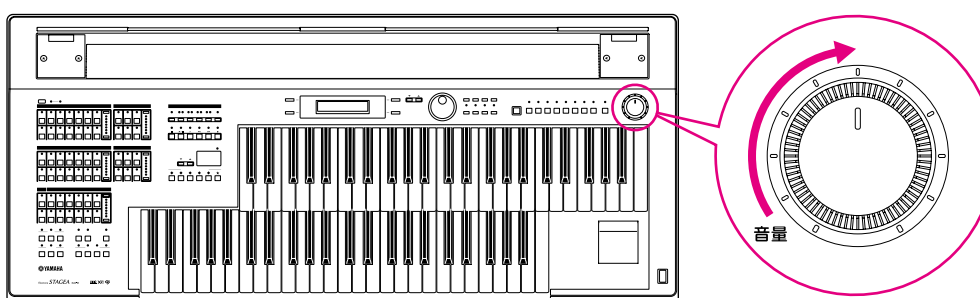
エクスプレッションペダル



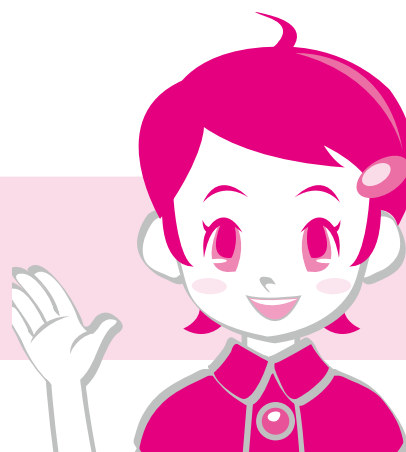
でんげん
電源スイッチを押して、でんげん
電源を入れてね。



おんりょう
エレクトーンの音量を上げて、エクスプレッションペダルを踏み込もう。



あとでじゅんび
これで音が出る準備ができたよ。





おと だ 音を出してみよう

けんばん ひ
鍵盤を弾いてみよう。

うえけんばん したけんばん けんばん おと
上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤は、みんなちがう音がするね。



エレクトーンは、うえけんばん したけんばん けんばん
たくさんの種類の音の中から、好きな音を選べるんだよ。
この音を「ボイス」っていうの。

うえけんばん 上鍵盤のひみつ

あら？

うえけんばん おと
上鍵盤の音をよく聞いてみると…音に厚みがあるね！

うえけんばん おと
じつは上鍵盤の音は、2つのちがう音が同時に鳴っているの。

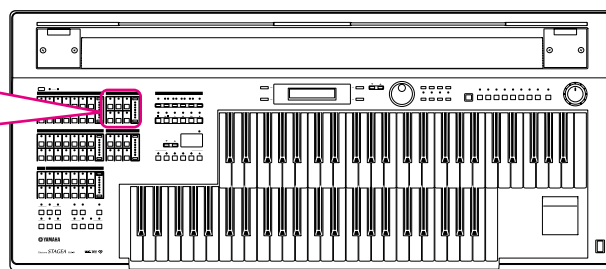
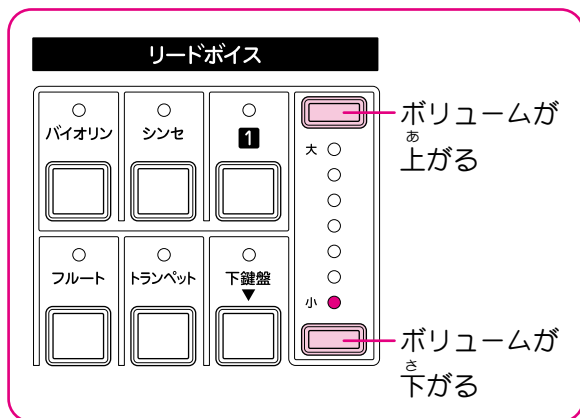
うえけんばん
「上鍵盤ボイス」と「リードボイス」っていうよ。



メモ

リードボイスは、フルートやトランペットなどの音のことだよ。響きのよい音が
うえけんばん
上鍵盤ボイスといっしょに鳴ることで、サウンドを豊かにしてくれるよ。

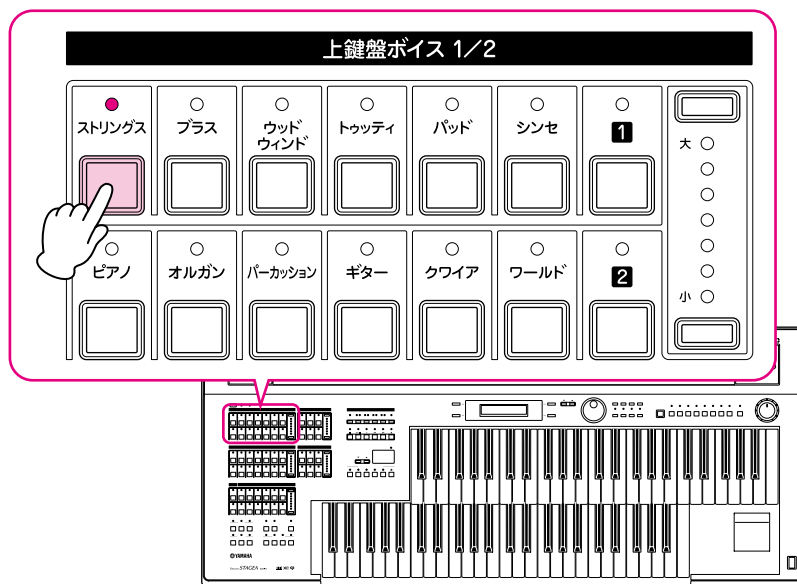
「リードボイス」のボリュームを一番下まで下げて、「上鍵盤ボイス」だけの音を聞いてみよう。



けんばん お
鍵盤を押さえると…うえけんばん
上鍵盤ボイスだけが出たね！

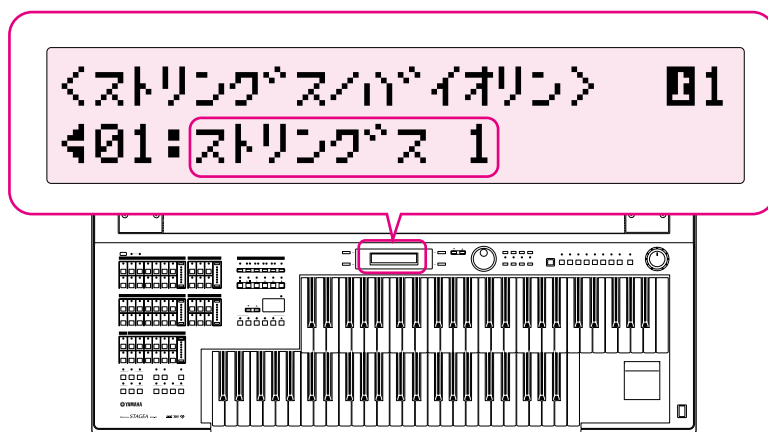
うえけんばん
まず、上鍵盤ボイスの音を選んでみよう

うえけんばん
上鍵盤ボイス 1/2 の[ストリングス]のボタンを押してみよう。

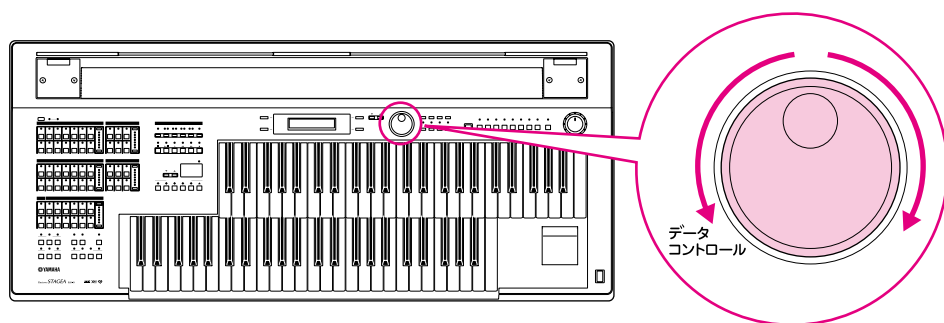


うえけんばん ひ
上鍵盤を弾くと…ストリングス (弦楽器) の
おと で
音が出たね!

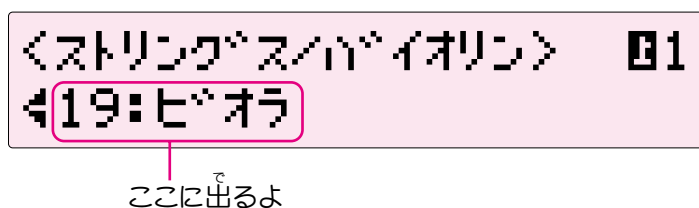
がめん み 画面を見てみよう



ストリングスの部屋には、たくさんの音がかくれているのよ。
 今は、画面にストリングス1が出ているから、ストリングス1の音が鳴るの。
 かくれている音は、データコントロールダイヤルを回すと、1つずつ順番に
 画面に出てくるよ。



たとえば画面に、「19: ビオラ」を出してみよう。



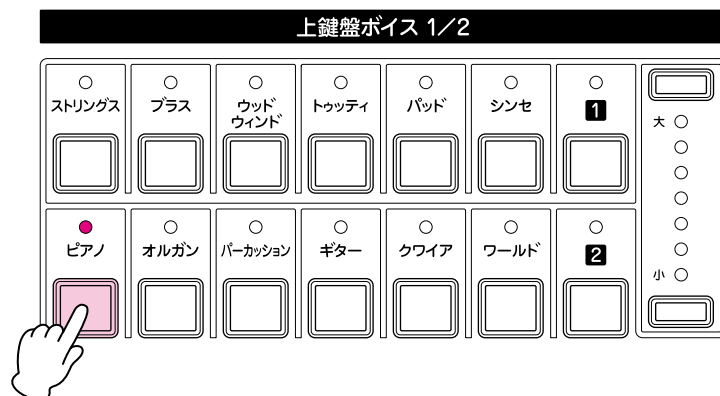
うえけんばん ひ
上鍵盤を弾くと…ビオラの音が鳴ったね。

メモ

データコントロールダイヤルを右に回すと、かくれている音が1つずつ順番に選べるよ。かくれている音が最後まで出たら、データコントロールダイヤルを右に回しても画面は変わらないんだ。今度はデータコントロールダイヤルを左に回してごらん。右に回したときとは逆の順番で選べるよ。

つぎ おと 次はピアノの音にしてみよう

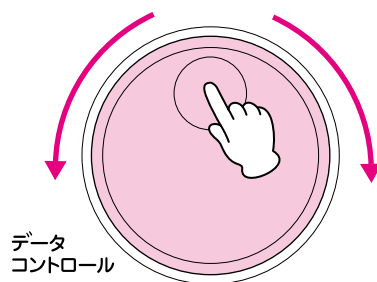
[ピアノ]ボタンを押して^お鍵盤^{けんぱん}を弾^ひいてみよう。



ピアノの音^{おと}がしたかな？

ピアノの部屋^{へや}にも、たくさんのお^{おと}音が^かくれているよ。

データコントロールダイヤルを^{まわ}回して、好きな音^{おと}を選^{えら}ぼう。



ほかにもいろいろな音^{おと}があるよ。パネルのボイスボタンを
いろいろ押^おして試^{ため}してみてね！

とりあつかいせつめいしょ
取扱説明書の36ページには、音^{おと}の説明^{せつめい}があるよ！



メモ

リードボイス、下^{した}鍵盤^{けんぱん}ボイス、ペダル鍵盤^{けんぱん}ボイスも、同じようにして音^{おと}が選^{えら}べるよ。

リードボイスを選^{えら}ぶときは、リードボイスのボタンを押^おしてね。

下^{した}鍵盤^{けんぱん}の音^{おと}を選^{えら}ぶときは、下^{した}鍵盤^{けんぱん}ボイス1/2のボタンを押^おすよ。

ペダル鍵盤^{けんぱん}の音^{おと}を選^{えら}ぶときは、ペダルボイス1/2のボタンを押^おしてね。

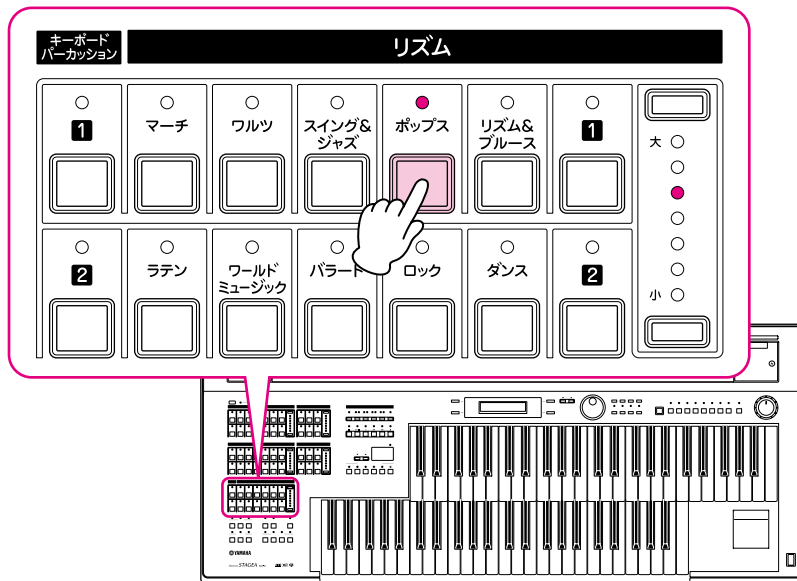


リズムを鳴らしてみよう

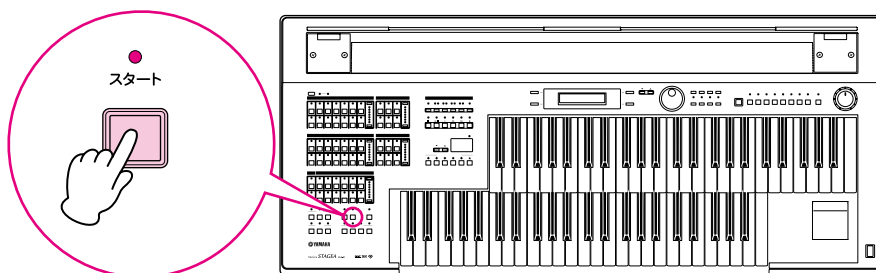
パネルには、たくさんのリズムボタンがあるね。

さっそくリズムパターンを聞いてみよう。

まず、[ポップス]のボタンを押してみよう。

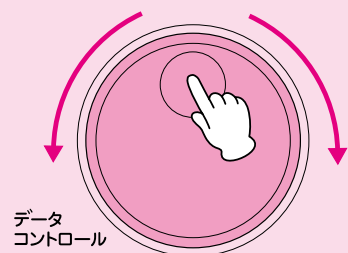


[スタート]ボタンを押すとリズムがスタートするよ！



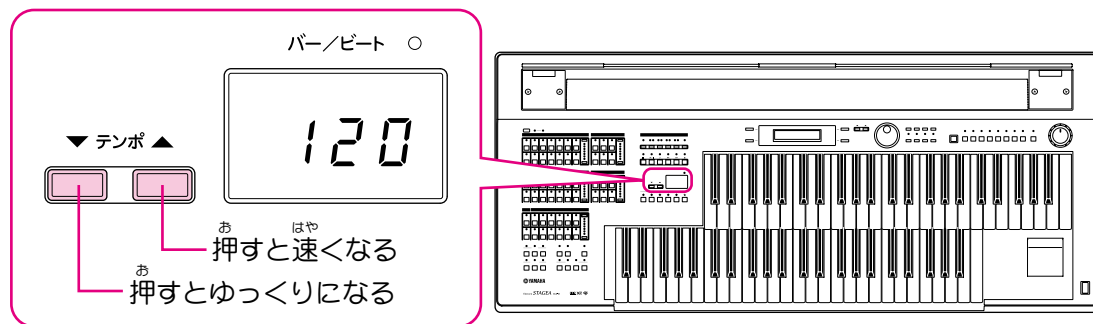
ポップスの部屋にも、たくさんのリズムが
かかれているんだよ。

データコントロールダイヤルを回して、
好きなリズムを選んでね。

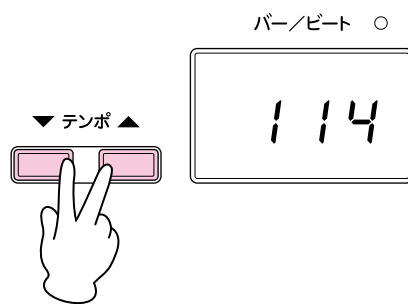


テンポボタンでリズムの速さが変わるんだ。

[▲]を押すと速くなるよ。[▼]を押すとゆっくりになるよ。



えら 選んだリズムにいちばん合うテンポにしたいときは、[▲]と[▼]をいっしょに押してね。



ほかにはどんなリズムがあるかな？
いろいろお 押してきいてみよう。
リズムを止めるときは、もう一度 いちど
[スタート]ボタンをお 押してね。



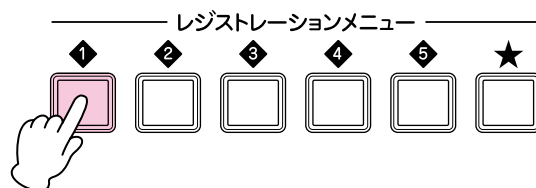


おと 音とリズムをいっぺんに楽しむ

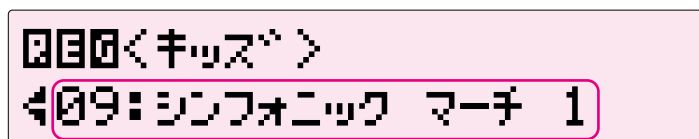
おと 音やリズムを1つ1つ選ばなくても、ボタンを押すだけで全部選ぶことができるのよ！

マーチのイメージの音とリズムを試してみましょう。

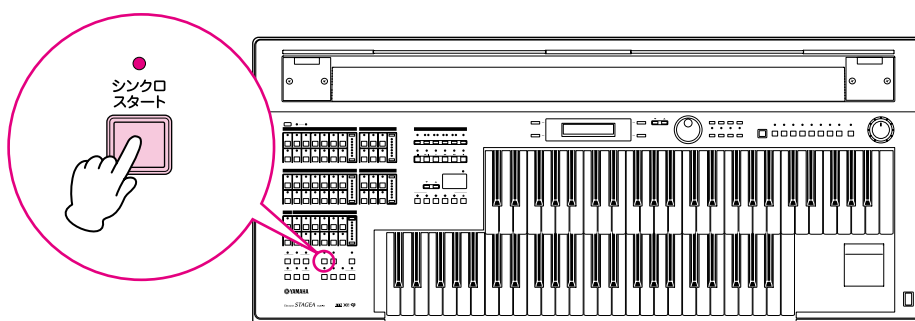
レジストレーションメニューの[1]ボタンを押して…



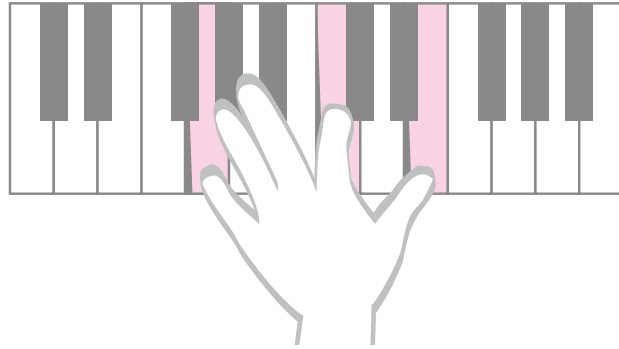
データコントロールダイヤルを回して、画面に「09:シンフォニック マーチ 1」を出してみましょう。



[シンクロスタート]ボタンを押してね。



ひだりて したけんばん わ おん あ し どうてき
左手で下鍵盤の和音「ソドミ」を押さえると…リズムが自動的にスタートしたね！



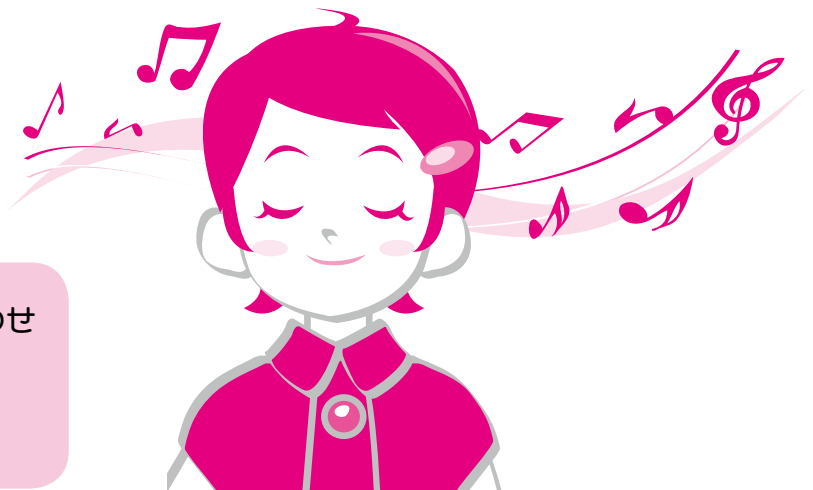
このリズムに合わせてベースを弾いてみましょう！

ひだりて お ひだりあし けんばん
左手は「ソドミ」を押さえたまま、左足でペダル鍵盤の「ド」をトン、トンって
ふ 踏んでみて！ ブン、ブンって鳴るのがわかったかな？

みぎて ひ
右手でメロディーも弾いてみましょう。



げんき かん
元気なマーチのイメージを感じてもらえたかしら？



うえけんばん したけんばん おと く あ
上鍵盤と下鍵盤の音の組み合わせ
もぴったり合ってる。
なんだかとってもいい気持ち！

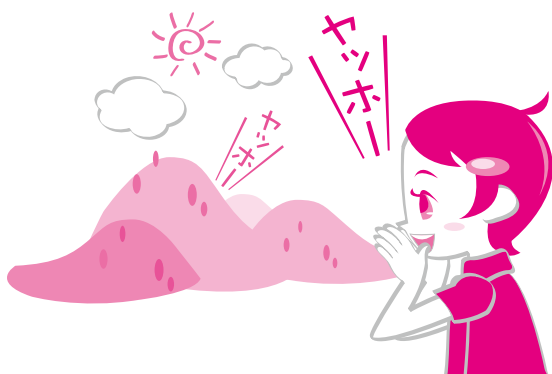
メモ

おと く あ
この音やリズムなどの組み合わせを、「レジストレーション」っていうよ。

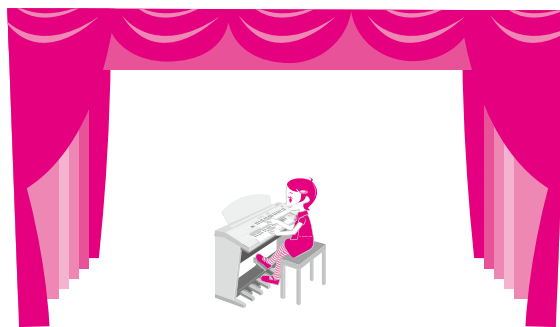
ほかにもいろいろな組み合わせがあるよ。試してみてね！



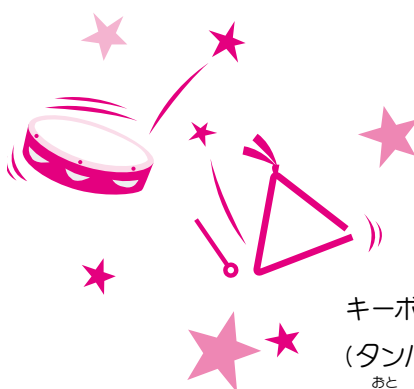
つか かた そのほかの使い方



エフェクト(音をうねらせたり、
こだまのようにくり返させたり
できるよ)



リバーブ(ホールで弾いているような感じで
音が響くよ)

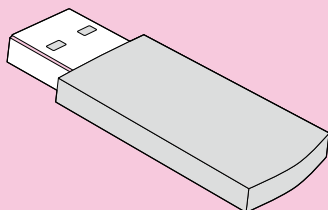


キーボードパーカッション
(タンバリンやトライアングルの音を
鳴らしたりできるよ)

エレクトーンの音をホールで弾いているような感じに響かせたり(リバーブ)、
音をうねらせたり、こだまのようにくり返させたり(エフェクト)、鍵盤で
タンバリンやトライアングルの音を鳴らしたり(キーボードパーカッション)、
いろいろなことができるよ。

ユーエスビー
USBフラッシュメモリーを使うと、自分の演奏を
録音できるのよ。

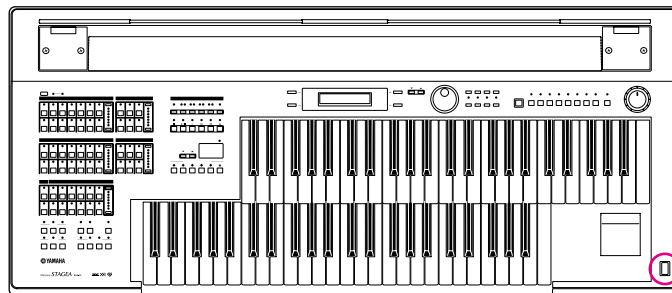
録音の方法は、取扱説明書の118ページを見てね！



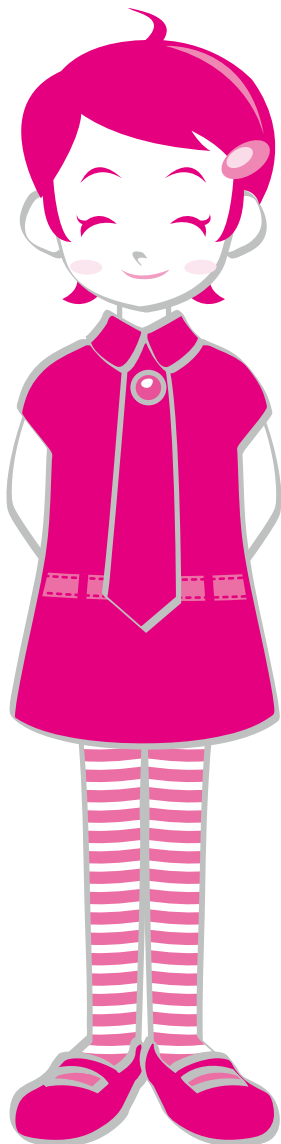


つか お 使い終わったら

つか お
使い終わったら、でんげん
電源スイッチを押してでんげん
電源を切ってね。



電源



エレクトーンにほこりがはい
入らないように、
カバーをかけておこうね。

第2部

楽譜を使って弾いてみよう

第1部では、エレクトーンを弾くときの姿勢と、主な基本操作を学びました。第2部では、楽譜を使って実際にエレクトーンを演奏してみましょう。

まずは、エレクトーンを演奏する前に知っておきたい各鍵盤の音の高さや、楽譜の見方などを簡単にご紹介します。そのあとに、「聖者の行進」、「木星」の2曲の楽譜が掲載されています。1曲目が簡単な曲、2曲目がチャレンジ曲になっています。それぞれ楽譜のあとに掲載されている「演奏の準備をしよう」でエレクトーンの設定を行ってから、演奏に入りましょう。それでは始めましょう。

鍵盤と楽譜上の音

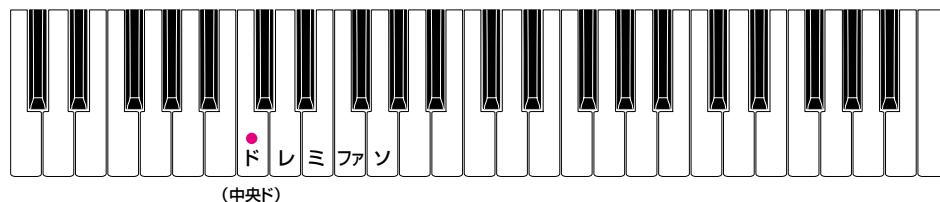
ここでは、演奏のまえに知っておきたい各鍵盤の音の高さや、楽譜の見方などをご紹介します。エレクトーンの各鍵盤を押さえたときに鳴る音と、楽譜上の音の高さの関係は、以下のようにになっています。

(選んだボイスによっては、楽譜上の音より低かったり高かったりすることもあります)

右手は



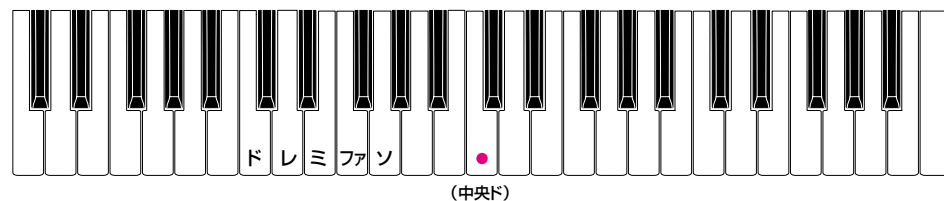
上鍵盤



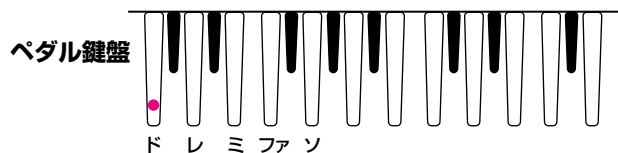
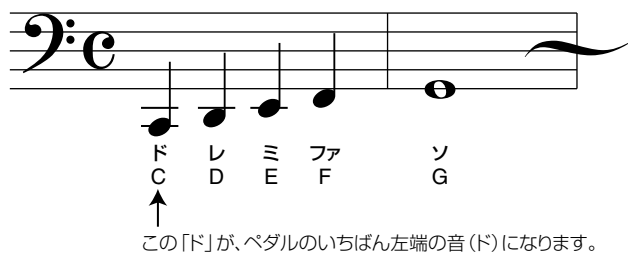
左手は



下鍵盤



ひだりあし 左足は

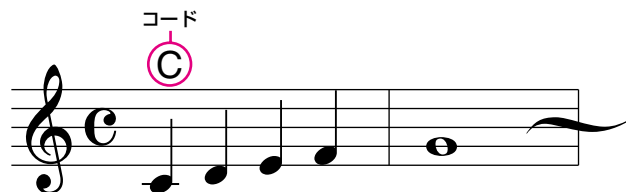


ドレミファソラシ..... イタリア語での音の呼びかたです。
CDEFGAB..... 英語での音の呼びかたです。

がく ふ み かた 楽譜の見方

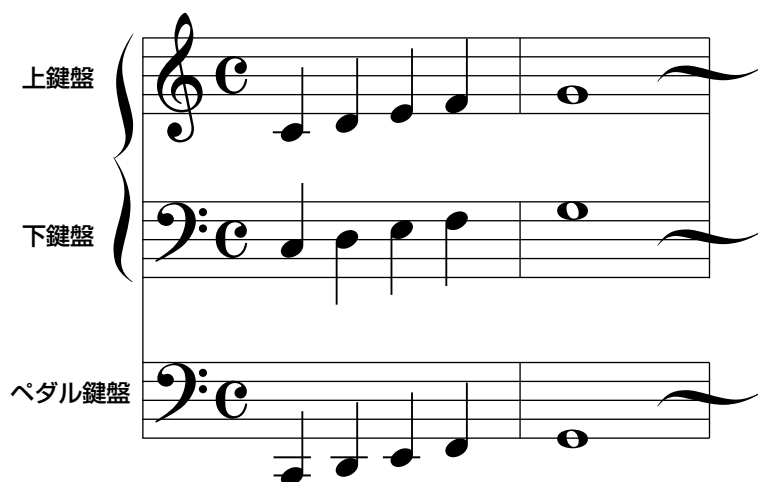
した がく ふ けいしき
下の楽譜はエレクトーンでもっともポピュラーな楽譜の形式です。

だん ふ 1 段譜



みぎて こせん ふ ひ
右手で五線譜のメロディーを弾きます。うへにあるアルファベットはコードの指示です。コードはひだりて ひだりあし
で弾きます(コードの弾き方参照 44ページ)

3 段譜

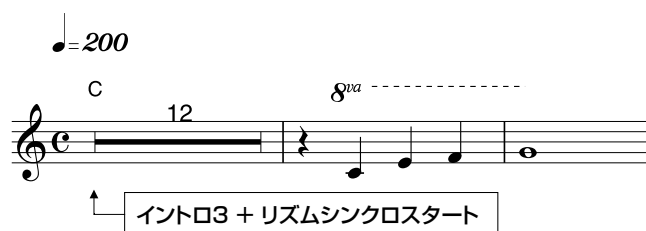


うえけんばん したけんばん けんばん ひ おと しる
上鍵盤、下鍵盤、ペダル鍵盤で弾く音をすべて記しています。上から順に、上鍵盤(右手)、下鍵盤(左手)、
ペダル鍵盤(左足)で弾く音です。

がくふじょう きごう 楽譜上の記号

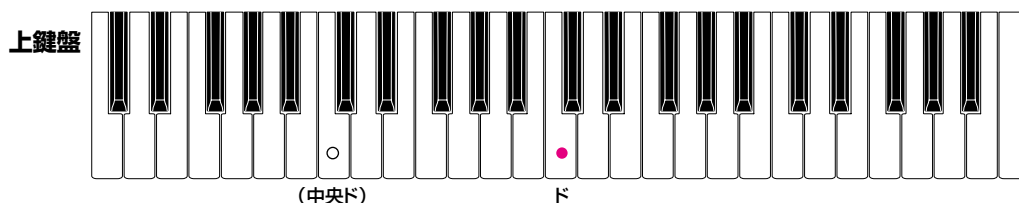
エレクトーンでは、パネル上のボタンを押して、リズムをスタートさせたり、演奏中にレジストレーションを切り替えたりします。「ボタンを押す」という指示は、楽譜上に記されています。

このイラストの場合、「イントロ[3] ボタンを押したあと、[シンクロスタート] ボタンを押す」という意味です。



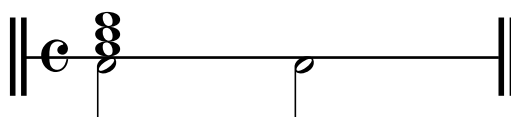
オクターブ記号

この記号が記された部分は、楽譜上の音の高さより 1 オクターブ高い鍵盤を弾きます。



おすすめ伴奏パターン

エレクトーンの 1 段譜のそばに、下のようなイラストがついている場合があります。これは、その曲を演奏するときのおすすめ伴奏パターンをあらわしています。伴奏パターンとは、左手と左足でコード(Cなど)を弾くときに、どういうリズムで弾くとよいかをあらわしたものです。1 段譜では、左手と左足で弾く音はコード(Cなど)として記されるため、どの音を弾くかはわかりませんが、何拍目に弾いて何拍伸ばすかはわかりません。この、何拍目に弾いて何拍伸ばすかをあらわしたものが、伴奏パターンです。



横線より上の音符は左手で下鍵盤を弾くリズム、下の音符は左足でペダル鍵盤を弾くリズムをあらわしています。このイラストの場合、左手は各小節の 1 拍目に全音符を押さえ、左足は、1 拍目と 3 拍目に 2 分音符を弾くという意味をあらわしています。

せいじゃ こうしん 聖者の行進

アメリカ民謡

♩ = 200

C 12 8^{va} -----

イントロ3 + リズムシンクロスタート

C G7

C F C^{onG}

G7 C (8^{va} ----- |)

エンディング2 (右手)

メモ

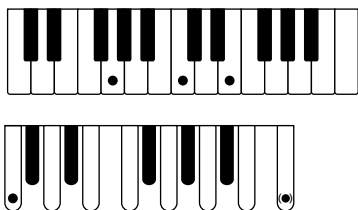
「^{せいじゃ こうしん}聖者の行進」は、ジャズ発祥の地、アメリカのニューオーリンズで生まれた曲です。パレードなどでよく演奏されているので、みなさんも一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。陽気なリズムに、明るいブラスサウンドがよく合う、親しみやすい曲です。

演奏上のポイント

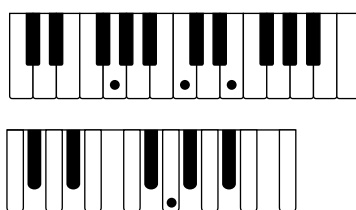
テンポの速い曲です。2拍子を感じながらノリよく弾きましょう！ 各小節の1拍目と3拍目を意識するとうまくいきます。

コードの押さえ方

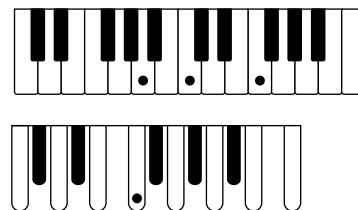
C
(シー)



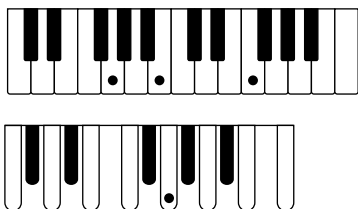
C^{on}G
(シー オン ジー)



F
(エフ)



G7
(ジー セブン)

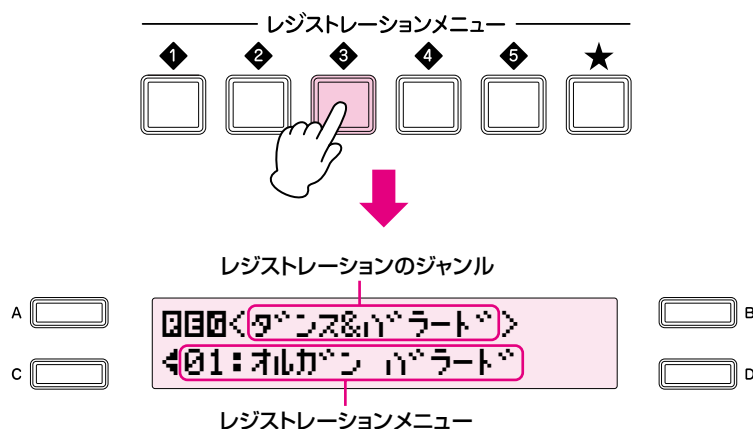


えんそう じゅんび 演奏の準備をしよう

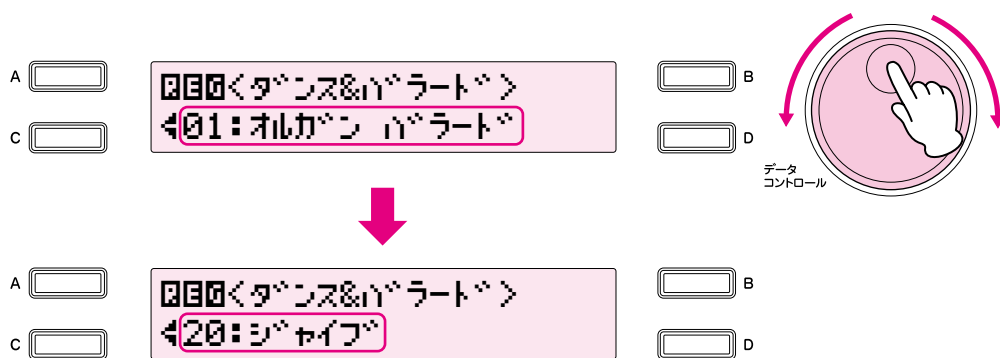
このエレクトーンには、「聖者の行進」を演奏するのにぴったりな音やリズムの組み合わせが、あらかじめ入っています。この組み合わせのことを「レジストレーション」といいます。この曲に合ったレジストレーションを選んでみましょう。

レジストレーションを選ぶ

- 1 パネル上のレジストレーションメニュー [3] ボタンを押します。
画面の下段に、レジストレーションメニューが表示されます。

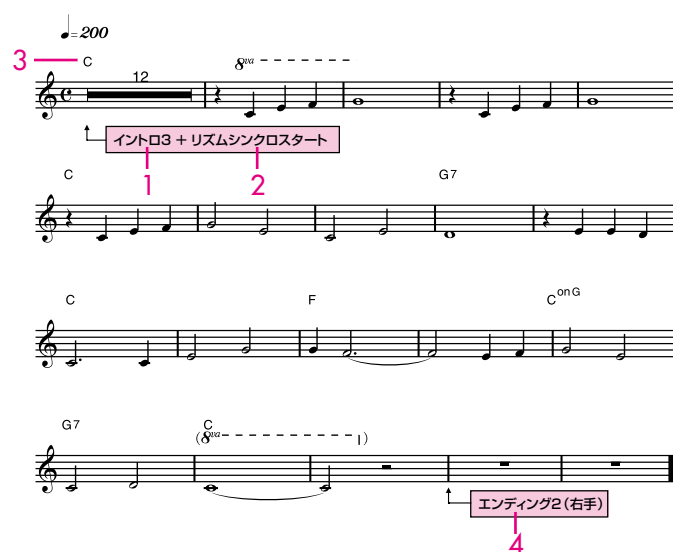


- 2 画面の右横にあるデータコントロールダイヤルを回して、「20: ジャイブ」を選びます。

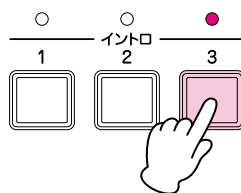


これで、演奏のためのレジストレーションが選ばれました。

えんそう 演奏をはじめよう

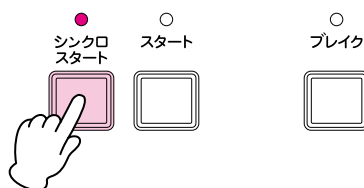


1 パネルのリズムセクションにある、イントロ [3] ボタンを押します。



2 [シンクロスタート] ボタンを押します。

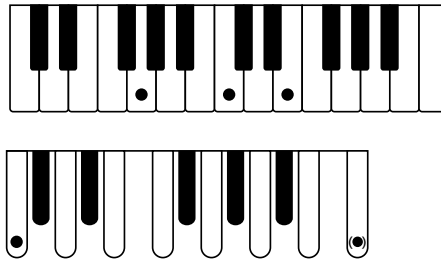
シンクロスタートボタンのランプが点灯します。



シンクロスタートとは…？

[シンクロスタート] ボタンを押してシンクロスタートをオンにすると、リズムは待機状態になります。この状態のとき、下鍵盤かペダル鍵盤を押さえると同時にリズムがスタートします。

3 ひだりて あし 左手と足で、Cコードを押さえます(23ページ「コードの押さえ方」参照)。



押さえると同時に、ステージの豪華なイントロ自動伴奏が鳴りはじめます。イントロ3のパターンは全13小節です。パネル上のバー/ビート表示に「- 13.1」(マイナス13.1)と表示され、メイン演奏開始の「1.1」に向けてカウントが始まります。その間、左手は押さえたままにしておきましょう。12小節聞いたあと、13小節目の2拍目(バー/ビート表示が「- 1.2」)から右手のフレーズを弾き始めます。タイミングに気を付けてください。

右手は楽譜の音の高さより1オクターブ上で弾きましょう。
(8va…の表示は「1オクターブ上を弾く」という意味です)

4 メロディーを弾き終えて、楽譜に **エンディング2 (右手)** と記されている位置まで進んだら、右手でエンディング [2] ボタンを押します。

自動でこのリズムに合ったエンディングパターンが鳴ります。この間、左手はずっと押さえたままにしましょう。



もくせい
木星

作曲 G. Holst

♩=69 メモリー 1

A F G Am G F G

mp

イントロ1 + リズムスタート

Am G F G C^{on}E F G

C B G Am7 G^{on}B G C

mf

フィルインB(左手)

F Am G F C^{on}E
 F G メモリー
2 C F G Am G
 F G Am G F G
 C^{on}E F G C
 エンディング1(左手)

f
 フィルインC(左手)

メモ

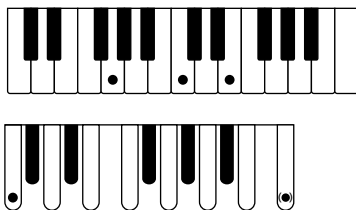
『木星』は、イギリスの作曲家ホルストが、太陽系の惑星をモチーフに作曲した壮大な組曲の中の1曲です。組曲の中でもひとときわ壮大で美しいメロディーを持つため、もともとクラシックファンには人気の高い曲でしたが、日本では2003年に、木星をアレンジした曲に平原綾香さんが日本語詞をつけて歌ってヒットし、あらためてその美しいメロディーが見直されました。

演奏上のポイント

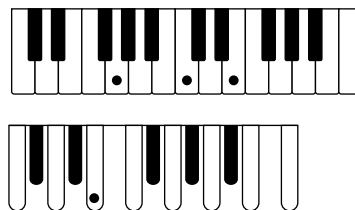
ロワーメモリー (35 ページ参照) がオンになっています。ロワーメモリーがオンのときは、下鍵盤から指をはなしたあとも、下鍵盤で弾いた音が鳴り続けます。そのため、間違えて不要な音まで押してしまうと、あらためてコードを弾きなおすまで、不要な音も鳴り続けてしまいます。左手で和音を弾くときには、正しい鍵盤だけを押さえるように注意しましょう。

コードの押さえ方

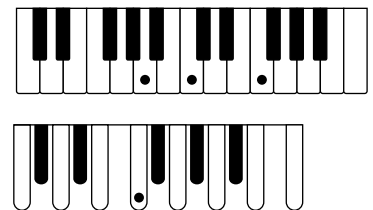
C
(シー)



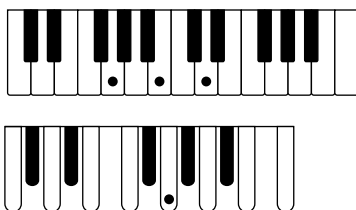
C^{on}E
(シー オン イー)



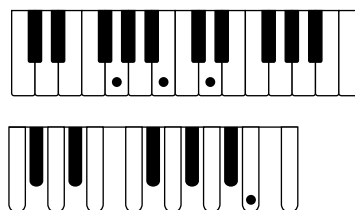
F
(エフ)



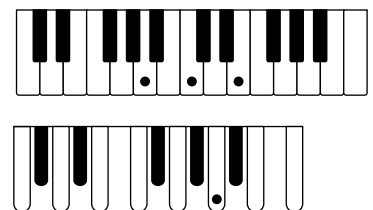
G
(ジー)



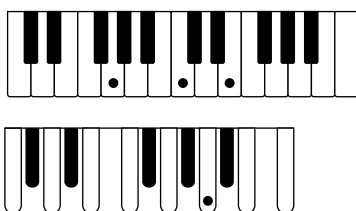
G^{on}B
(ジー オン ビー)



Am
(エー マイナー)



Am7
(エー マイナー セブン)



えんそう じゅんび 演奏の準備をしよう

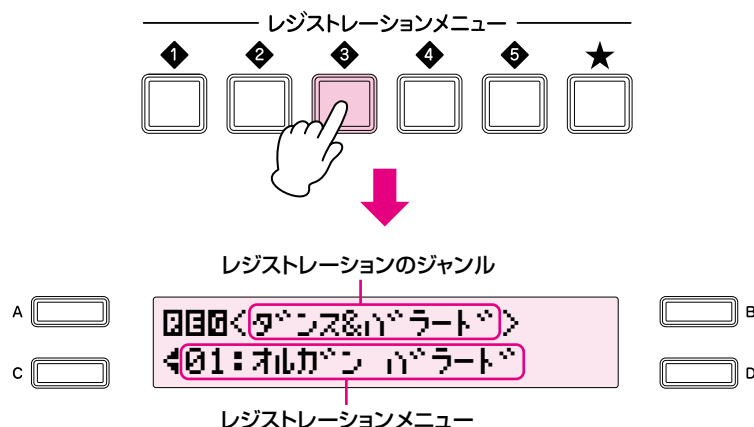
「木星」では、2つのレジストレーションメモリー（メモリー 1、メモリー 2）を使って演奏します。メモリー 1 は楽器にセットされているレジストレーションをそのまま使い、メモリー 2 は選んだレジストレーションの音色や設定に少し変更を加えてつくります。つくったレジストレーションは、レジストレーションメモリーボタンに記録することで、何度でも呼び出すことができます。さらに、ボタンに記録したレジストレーションを、USB フラッシュメモリーなどのメディアに保存できます。

レジストレーションを設定する

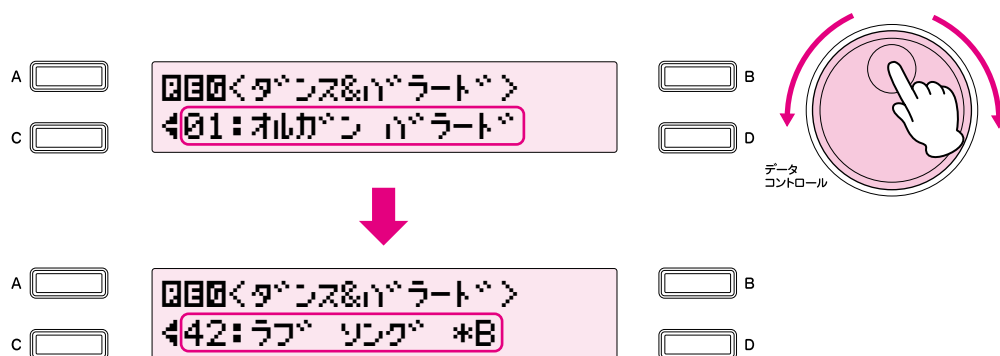
メモリー

1 1 つめのレジストレーションをつくります

- 1 レジストレーションメニューの [3] ボタンを押します。
「ダンス&バラード」のレジストレーションメニューが表示されます。



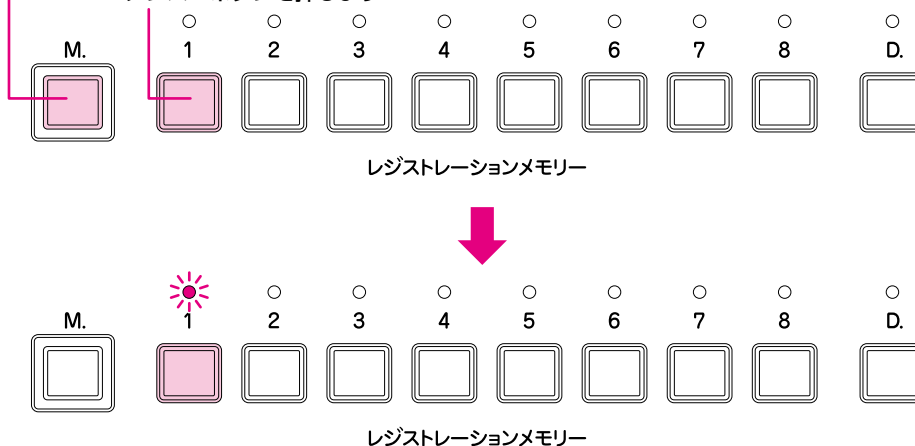
- 2 画面の右横にあるデータコントロールダイヤルを回して、「42: ラブソング* B」を選びます。



- 3** この設定を、レジストレーションメモリーのナンバーボタン[1]に記録します。
- パネル右上の、レジストレーションメモリーボタンの左側にある、赤い[M.]（メモリー）ボタンを押しながら、レジストレーションメモリーのナンバーボタン[1]を押します。

1. [M.]ボタンを押しながら

2. ナンバーボタンを押します



ナンバーボタン[1]の上にあるランプが一時的に点滅し、記録が完了したことを示します。

これで1つめのレジストレーションができました。

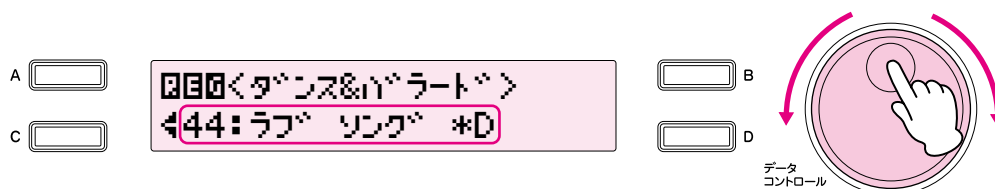
メモリー

2

続いて、2つめのレジストレーションをつくります

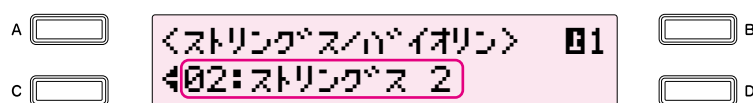
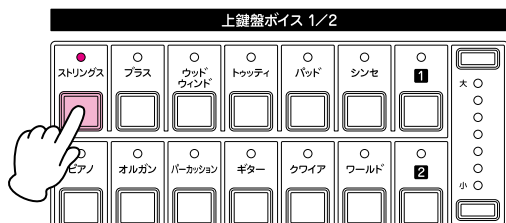
1

画面の右横にあるデータコントロールダイヤルを回して、「44：ラブソング＊D」を選びます。



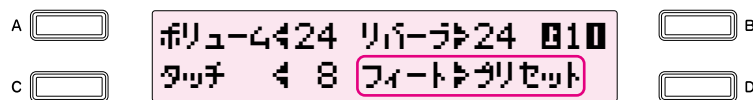
2 ^{てじゅん}手順1で選んだレジストレーションの、^{えら}ストリングスのフィート(音の高さ)^{おと たか}を変更し、さら^{へんこう}に厚い^{あつ}ストリングスサウンドにします。

2-1 ^{うえけんばん}上鍵盤ボイス1/2の[ストリングス]ボタンを押します。^お



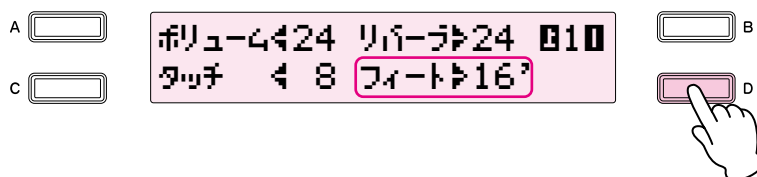
画面に「ストリングス2」が表示されます。^{ひょうじ}手順1で選んだレジストレーション「ラブソング*D」のボイスには、ストリングス2が設定してあることがわかります。

2-2 ^{いちど}もう一度パネルの[ストリングス]ボタンを押すと、ストリングス2の細^{こま}かい設定^{ひょうじ}が表示されます。これをボイスコンディション画面といいます。



画面右下に「フィート」が表示されます。

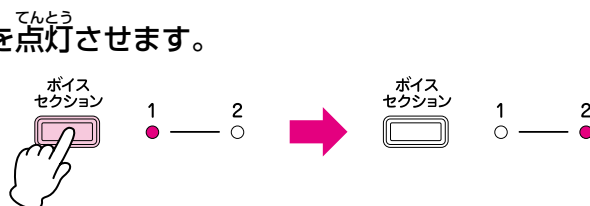
2-3 [D] ボタンを^{なんど}何度か押して、フィート(音の高さ)^{おと たか}を「16」に変更します。^{へんこう}



これでストリングスのサウンドに厚^{あつ}みがつきました。

3 ペダルボイス2にセットされている「ティンパニ」の音をオフ(音が鳴らない)にします。

3-1 パネル左上の[ボイスセクション]ボタンを押して、イラストのようにボイスセクション2のランプを点灯させます。



ボイスセクション2のランプを点灯させることで、ボイスセクション2のボイス(上鍵盤ボイス2、下鍵盤ボイス2、ペダルボイス2)を選んだり、各鍵盤で選ばれているボイスセクション2のボイスをボイスディスプレイで確認できるようになります。

ボイスセクション2のボイスとは…?

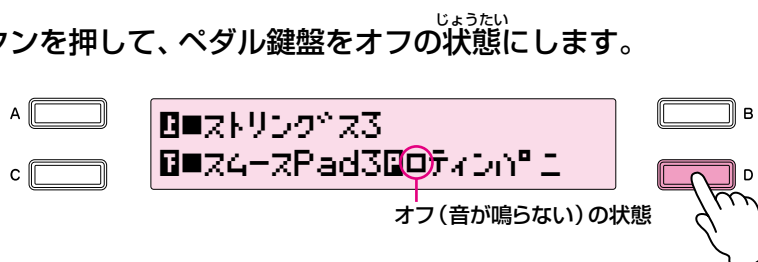
このエレクトーンでは、1つの鍵盤を押さえて2つの音を鳴らすことができます。ペダル鍵盤の場合、ペダルボイスのボイスセクションを1と2に切り替えて、ボイスセクション1からペダルボイス1、ボイスセクション2からペダルボイス2を選ぶことで、2つの音が鳴ります。ボイスセクションの切り替えについては取扱説明書の30ページをご覧ください。

3-2 ディスプレイセレクトの[ボイスディスプレイ]ボタンを押します。

各鍵盤で選ばれているボイスセクション2のボイスが画面に表示されます。



3-3 [D] ボタンを押して、ペダル鍵盤をオフの状態にします。



ティンパニの左横にある■が□になります。□はオフ(音が鳴らない)の状態です。これで、ペダル鍵盤を弾いても、ティンパニが鳴らない状態になりました。

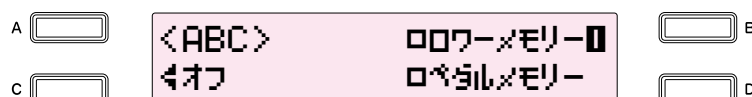
4 A.B.C. (オートベースコード) の^{せってい}設定をします。

A.B.C.(オートベースコード)とは…?

リズムと^{れんどう}連動し、^{えんそう}演奏にあわせて自動的にベースの^{ばんそう}伴奏が得られる機能です。^{えら}選ばれているリズムにあ^あわせて、ベースの^なパターンが自動的に鳴ります。

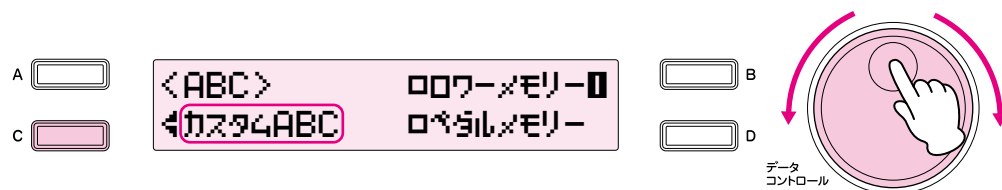
4-1 ディスプレイセレクトの^{エービーシー エムオーシー}[A.B.C./M.O.C.] ボタンを押します。

A.B.C.^{が めん ひょうじ}画面が表示されます。



画面^{ひだりした}左下にA.B.C.モードの^{じょうたい}状態(この画面ではオフ)が表示されています。

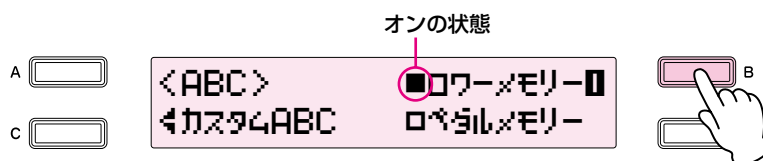
4-2 データコントロールダイヤルを^{まわ}回して、「カスタムA.B.C.」を^{えら}選びます。



リズムが^な鳴っているあいだは、ペダル^{けんぱん}鍵盤を1音押さ^{おん お}えただけで、ベースの^{し どうてき}フレーズが自動的に鳴るようになります。

4-3 [B] ボタンを押して、「ローメモリ」をオンにします。

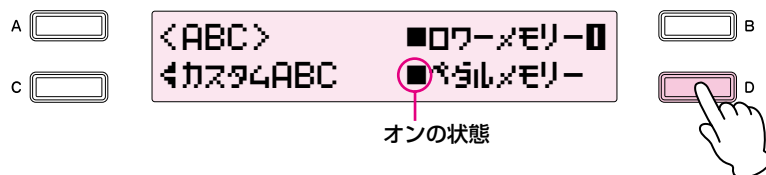
ローメモリの^{ひだりよこ}左横の□が■(オン)になります。



ローメモリとは…?

ローメモリをオンにすると、リズムが鳴っている間は、^{あいだ}下鍵盤から^{したけんぱん}指をは^{ゆび}なしても下鍵盤の^{おと}音が^{つづ}鳴り続けます。A.B.C.機能を使^{き のう}って^{えんそう}演奏するときはオンに^{べんり}しておく^{べんり}と便利です。

4-4 [D] ボタンを押して、「ペダルメモリー」をオンにします。



ペダルメモリーの左横の□が■(オン)になります。

ペダルメモリーとは…?

ペダルメモリーをオンにすると、リズムが鳴っているあいだは、ペダル鍵盤から足をはなしてもペダル鍵盤の音が鳴り続ける機能です。A.B.C.機能を使って演奏するときはオンにしておくと便利です。

5 リズムセクションのメイン/フィルイン [C] ボタンを押します。

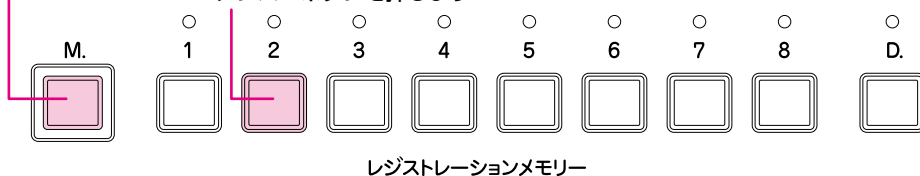
フィルインの状態になり、メイン/フィルイン [C] ボタンが点滅します。

6 この設定を、レジストレーションメモリーのナンバーボタン [2] に記録します。

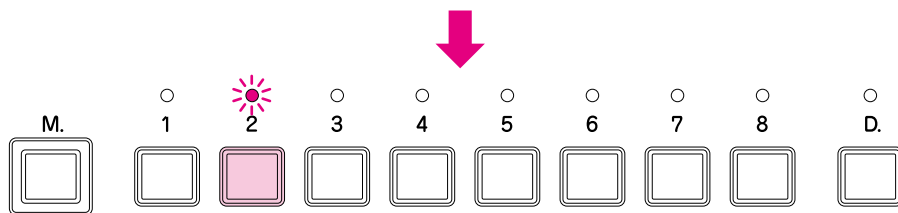
パネル右上の、レジストレーションメモリーボタンの左側にある、赤い [M.] (メモリー) ボタンを押しながら、レジストレーションのナンバーボタン [2] を押します。

1. [M.] ボタンを押しながら

2. ナンバーボタンを押します



レジストレーションメモリー



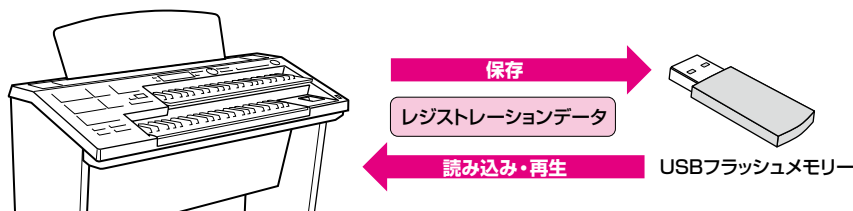
レジストレーションメモリー

ナンバーボタン [2] の上にあるランプが一時的に点滅し、記録が完了したことを示します。これで2つめのレジストレーションができました。

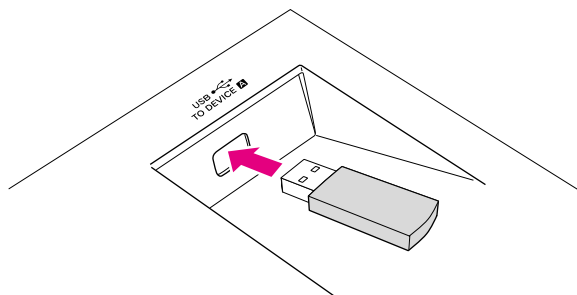
レジストレーションデータを^{ユーエスビー}USBフラッシュメモリーに^{ほ ぞん}保存する

せっかくつくったデータですから、記録したレジストレーションデータを、USBフラッシュメモリー（別売）に保存しましょう。

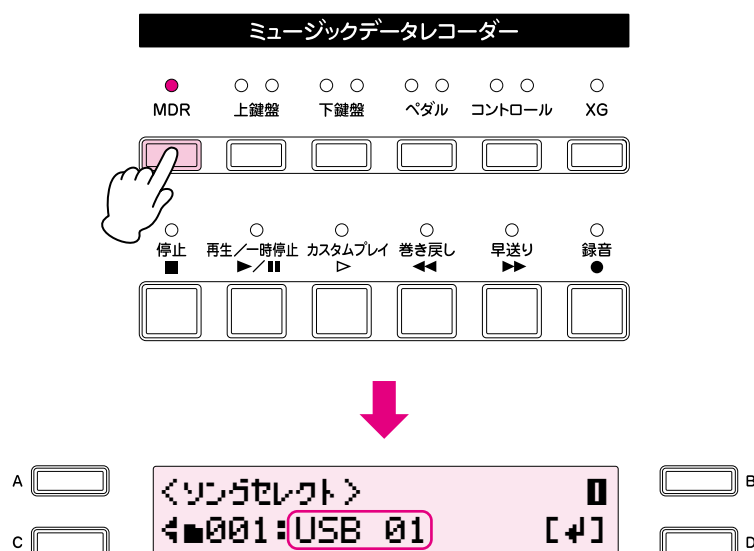
USBフラッシュメモリーをお買い求めの際は、ご購入の前にインターネット上のヤマハエレクトーンホームページ<<http://electone.jp/>>に掲載されている「USBデバイス動作確認リスト」で、使用可能なモデルをご確認ください。



1 USBフラッシュメモリーを^{ユーエスビー トゥー デ バ イ ス たん し そうにゆう}[USB TO DEVICE]端子に挿入します。



2 ^{エムディーアール}[MDR]ボタンを押して、^おソングセレクト画面を^{が めん ひょうじ}表示させます。



3 レジストレーションを保存するためのソングを選びます。

[+]と同じ位置にある[D]ボタンを押すと、画面下段に「new song」が表示されます。「new song」が表示されない場合は、データコントロールダイヤルを回すか、[C]ボタンを何度か押して「new song」を選びます。



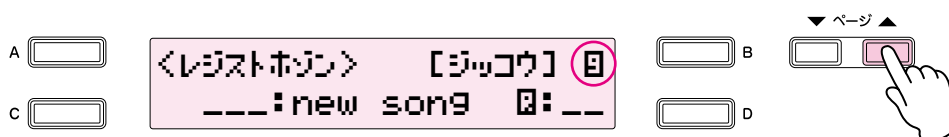
これで、レジストレーションを保存するソングが選べました。

ソングとは…？

本来は「曲」という意味ですが、エレクトーンでは、外部メディアに1曲分の曲データを保存するときの、「入れもの」を指します。この入れものには、自分の演奏を録音したり、レジストレーションデータを保存したりできます。

4 ページボタンを押してページ9を表示させます。

レジストホゾン(レジスト保存)画面が表示されます。

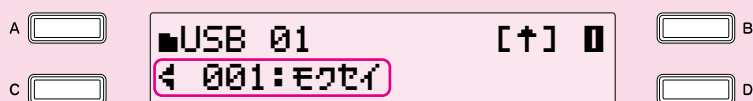


5 [ジッコウ](実行)と同じ位置にある[B]ボタンを押します。

レジストレーションを保存中であることを示すメッセージが、画面上に表示されます。メッセージが消えたあと、レジストレーションが保存されたソングに、「SONG XX」というソング名が表示されます(XXには数字が入ります)。

これで、レジストレーションメモリーボタンに記録されたレジストレーションが、USBフラッシュメモリー内のソングに保存されました。

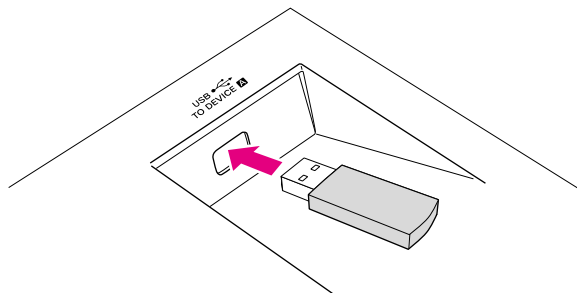
作成したソングには名前をつける(変更する)ことができます。名前のつけ方は、取扱説明書の123ページ「ソングに名前をつける」をご覧ください。たとえばここでは、ソングに「モクセイ」(木星)とつけておくと、あとで探しやすくなります。



USB フラッシュメモリーからレジストレーションを読み込む

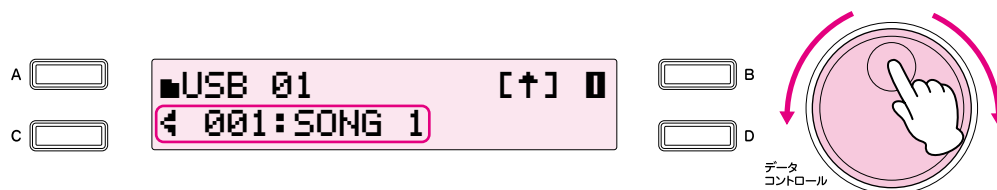
USB フラッシュメモリー内のソングに保存した「木星」のレジストレーションデータを、エレクトーンに読み込み、演奏のときに使えるよう準備します。

- 1 “木星”のレジストレーション(メモリー 1 とメモリー 2)を保存したUSBフラッシュメモリーを [USB TO DEVICE] 端子に挿入します。

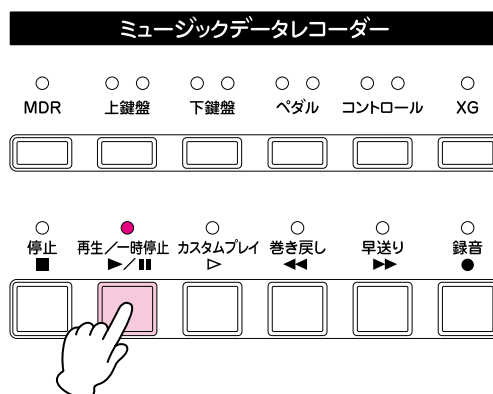


- 2 [MDR] ボタンを押して、ソングセレクト画面に入り、「木星」のレジストレーション(メモリー 1 とメモリー 2)が入っているソングを選択します。

ソングの選択については、取扱説明書の 112～115 ページをご覧ください。



- 3 [再生/一時停止] ボタンを押します。



レジストレーション読み込み中であることを示すメッセージが画面上に表示されます。読み込みが終わると表示が消えます。

これでレジストレーションメモリーのナンバーボタン [1]、[2] に「木星」のデータが読み込まれました。

えんそう 演奏をはじめよう

69

メモリー 1

A F G Am G F G

mp

イントロ1 + リズムスタート

Am 2 G F 3 G C^{on}E F G

C B G Am7 G^{on}B G C

mf

フィルインB(左手)

4

F Am G F C^{on}E

F G 2-5 C F G Am G

f

フィルインC(左手) 5

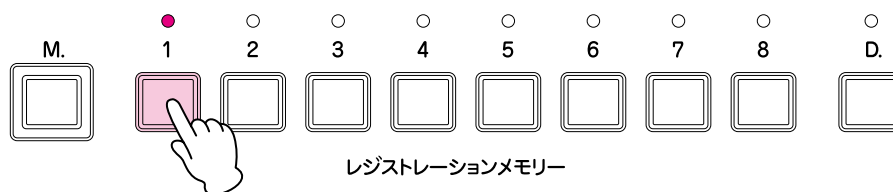
F G Am G F G

C^{on}E F G C

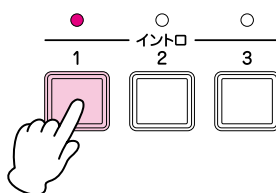
エンディング1(左手)

6

1 レジストレーションメモリーのナンバーボタン[1]を押します。

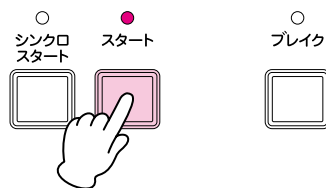


2 パネルのリズムセクションにある、イントロ[1]ボタンを押します。



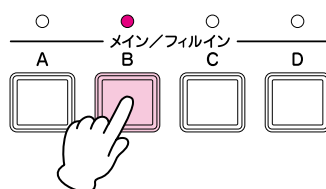
3 リズムセクションの[スタート]ボタンを押します。

3拍のカウントを聞いたあと、演奏をはじめます。

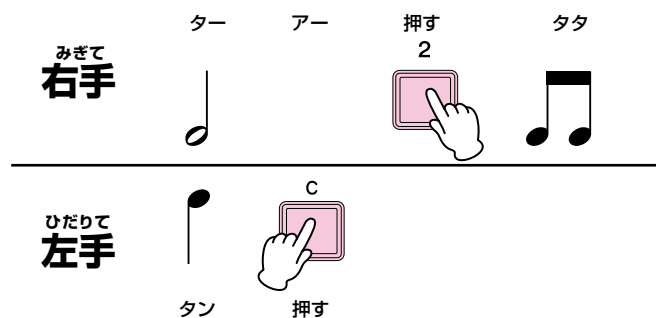


4 フィルイン B (左手) と記されている位置までですんだら、リズムセクションのメイン/フィルイン [B] ボタンを押します。

2拍目に左手で押すと、うまくフィルイン B が入ります。



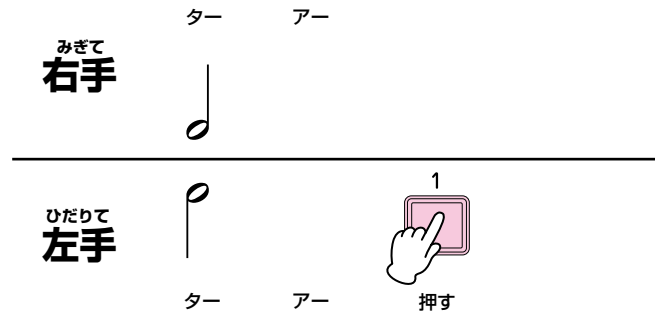
5 17小節目の フィルイン C (左手) と記されている位置までですんだら、左手でリズムセクションのメイン/フィルイン [C] ボタンを押し、メモリー [2] と記されている位置までですんだら、右手でレジストレーションメモリーのナンバーボタン [2] を押します。



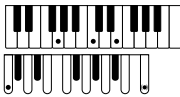
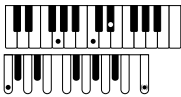
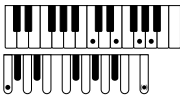
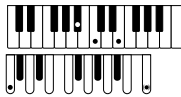
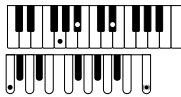
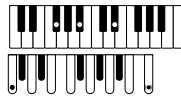
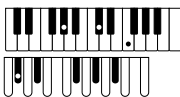
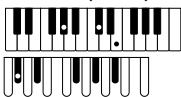
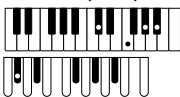
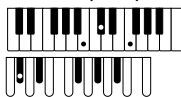
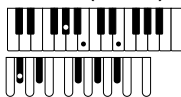
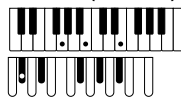
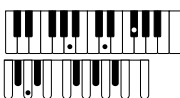
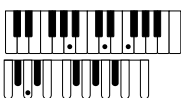
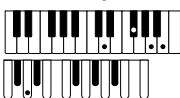
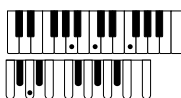
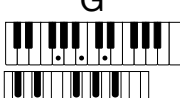
17小節目では、演奏の合間に2つのボタンをタイミングよく押して、フィルインを入れ、レジストレーションを切り替えます。

1 拍目の音符を弾いたら、右手は鍵盤を押さえたまま、2 拍目に左手でメイン/フィルイン [C] ボタンを押します。左手を鍵盤からはなしたまま、3 拍目に右手でレジストレーションメモリーのナンバーボタン [2] を押します。4 拍目に右手は演奏に戻ります。この間、左足はペダル鍵盤の演奏を続けます。

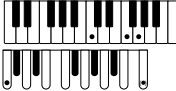
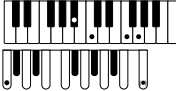
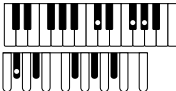
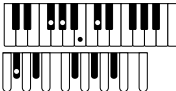
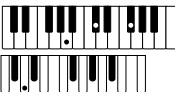
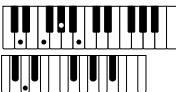
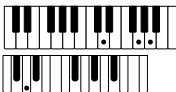
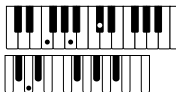
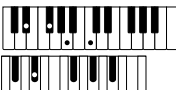
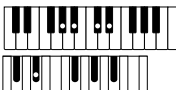
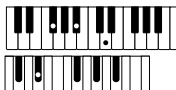
- 6 メロディーを弾き終えて、曲がエンディング1(左手)と記されている位置までですすんだら、
左手エンディング[1]ボタンを押します。
最後の小節では、3拍目に左手でエンディング[1]ボタンを押します。自動でこのリズムに合ったエンディングパターンが鳴り、曲が終わります。この間、右手はずっと押さえていましょう。



エレクトーンコード表 ひょう

メジャー・コード	マイナー・コード	シックス	セブンス	マイナーセブンス	マイナーセブン フラットドファイブ
C 	Cm 	C₆ 	C₇ 	Cm₇ 	Cm₇⁵ 
D^b (C[#]) 	C[#]m (D^bm) 	D^b₆ (C[#]₆) 	D^b₇ (C[#]₇) 	C[#]m₇ (D^bm₇) 	C[#]m₇⁵ (D^bm₇⁵) 
D 	Dm 	D₆ 	D₇ 	Dm₇ 	Dm₇⁵ 
E^b (D[#]) 	D[#]m (E^bm) 	E^b₆ (D[#]₆) 	E^b₇ (D[#]₇) 	D[#]m₇ (E^bm₇) 	D[#]m₇⁵ (E^bm₇⁵) 
E 	Em 	E₆ 	E₇ 	Em₇ 	Em₇⁵ 
F 	Fm 	F₆ 	F₇ 	Fm₇ 	Fm₇⁵ 
G^b (F[#]) 	F[#]m (G^bm) 	G^b₆ (F[#]₆) 	G^b₇ (F[#]₇) 	F[#]m₇ (G^bm₇) 	F[#]m₇⁵ (G^bm₇⁵) 
G 	Gm 	G₆ 	G₇ 	Gm₇ 	Gm₇⁵ 
A^b (G[#]) 	G[#]m (A^bm) 	A^b₆ (G[#]₆) 	A^b₇ (G[#]₇) 	G[#]m₇ (A^bm₇) 	G[#]m₇⁵ (A^bm₇⁵) 
A 	Am 	A₆ 	A₇ 	Am₇ 	Am₇⁵ 
B^b (A[#]) 	B[#]m (A^bm) 	B^b₆ (A[#]₆) 	B^b₇ (A[#]₇) 	B[#]m₇ (A^bm₇) 	B[#]m₇⁵ (A^bm₇⁵) 
B 	Bm 	B₆ 	B₇ 	Bm₇ 	Bm₇⁵ 

このコード表は、オートベースコード(A.B.C.)モードがカスタムのときの弾き方です。モードがオフとフィンガードのときは、ペダル鍵盤で押さえる鍵盤(根音)を、下鍵盤で押さえるようにしましょう。

メジャーセブンス	オーギュメント	ディミニッシュ	サスフォー	セブンスサスフォー	マイナーメジャーセブンス
C^M7 	C^{aug} 	C^{dim} 	C^{sus4} 	C^{7sus4} 	C^mM7 
D^bM7 (C[#]M7) 	D^baug (C[#]aug) 	C[#]dim (D^bdim) 	D^bsus4 (C[#]sus4) 	D^b7sus4 (C[#]7sus4) 	C[#]mM7 (D^bmM7) 
D^M7 	D^{aug} 	D^{dim} 	D^{sus4} 	D^{7sus4} 	D^mM7 
E^bM7 (D[#]M7) 	E^baug (D[#]aug) 	E^bdim (D[#]dim) 	E^bsus4 (D[#]sus4) 	E^b7sus4 (D[#]7sus4) 	D[#]mM7 (E^bmM7) 
E^M7 	E^{aug} 	E^{dim} 	E^{sus4} 	E^{7sus4} 	E^mM7 
F^M7 	F^{aug} 	F^{dim} 	F^{sus4} 	F^{7sus4} 	F^mM7 
G^bM7 (F[#]M7) 	G^baug (F[#]aug) 	F[#]dim (G^bdim) 	F[#]sus4 (G^bsus4) 	F[#]7sus4 (G^b7sus4) 	F[#]mM7 (G^bmM7) 
G^M7 	G^{aug} 	G^{dim} 	G^{sus4} 	G^{7sus4} 	G^mM7 
A^bM7 (G[#]M7) 	A^baug (G[#]aug) 	A^bdim (G[#]dim) 	G[#]sus4 (A^bsus4) 	G[#]7sus4 (A^b7sus4) 	G[#]mM7 (A^bmM7) 
A^M7 	A^{aug} 	A^{dim} 	A^{sus4} 	A^{7sus4} 	A^mM7 
B^bM7 (A[#]M7) 	B^baug (A[#]aug) 	B^bdim (A[#]dim) 	B^bsus4 (A[#]sus4) 	B^b7sus4 (A[#]7sus4) 	B^bmM7 (A[#]mM7) 
B^M7 	B^{aug} 	B^{dim} 	B^{sus4} 	B^{7sus4} 	B^mM7 

メモ

メモ

ヤマハ株式会社

エレクトーンの機能や取り扱いについては、ご購入の特約店または下記
ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター エレクトーン・D-DECKで相談窓口

ナビダイヤル
(全国共通番号)



0570-005-808

※全国どこからでも市内通話料金でおかけいただけます。

上記番号でつながらない場合は TEL 053-460-4836

営業時間: 月曜日～金曜日 10:00～18:00、土曜日 10:00～17:00
(祝日およびセンター指定休日を除く)

<http://jp.yamaha.com/support/>

※都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などが変更になる場合がございますので、あらかじめ
ご了承ください。

インターネットホームページ

ヤマハ株式会社ホームページ

<http://jp.yamaha.com/>



WF12600

C.S.G., DMI Development Division
© 2005-2014 Yamaha Corporation
2014年5月 改訂 MWAP*.~**D0
Printed in Vietnam

WF12600